

物語仕立て 動画をNPO投稿

# 貧困子どもたちの現実

子どもの目から見た貧困と孤立した暮らしを描いた物語が、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開されている。日本では、40人学級なら6人の子が貧困家庭で育っている計算になる。あすは、子どもの幸せを願うことの日。身近だけれど見えにくい子どもの現実を目をこらしてみませんか。

公開されているのは、「貧困を背負って生きる子どもたち

居場所をサポート

仁の物語」。ひとり親の生活保護家庭の子どもとサポートする大学生の姿を、短文と写真と音楽で伝える。前後編それぞれ約5分半。

物語をつくったのは、NPO法人「山科醍醐こどもひろば」（京都市）。家庭の事情で夜をひとりで過ごす子どもが安心して過ごせる居場所を、2010年に設けた。大

学3年生の仁は母と弟の3人暮らし。母親が心の病を患って仕事も家事もできなくなり、仁が弟の世話と家事を担う。仁のひとり語りが短文で次々と画面に表れる。

これまで利用した中3生は12人。その中の5人のエピソードをつなぎ合わせ、「仁」の人物像をつくりだした。そのひとり、今春中学を卒業した少年(15)は小学2年の時から、渡されたお金を持つ

学校に行っていないいやなやないんや

「学校行ってる場合じゃないんや」

孤立する仁。高校に行かず働くつもりだったが、大学生が無料で教えてくれる勉強会に誘われる。不登校を経験した青年と出会って心を開き、自らの道を選び取っていく。

## 対策法の制定訴え

生活保護費は削減の方向だ。中でも子育て世帯の引き下げが大きい。日本の子どもの貧困率は15・7%（厚生労働省）で、主な先進国の中で悪い水準だ。改善を求めて3月末、ひとり親家庭の若者たちが「子どもの貧困対策法」制定を国会議員らに訴えた。自民も民主は法案を練っている。

幸重さんは「普段こうした問題に触れない人に、親も子も精いっぱい生きていくことを伝えたい」と話す。

仁は最後に「ごめん」。

もしあの時あそこへ行っていなかったら今、自分はどんなになっていたのだろうか？

(中塚久美子)



まわりからうらばそんな風に思われとる。

テレビでもうらみたいな生活保護を受けている家庭はどうしょうもないって。

「貧困を背負って生きる子どもたち 仁の物語」前編後編



みんなを鍋をつつきながらたわいもない話をする夕飯っていつ以来やるうか。

## 子どもの貧困率

貧困ラインを下回る世帯に属する17歳以下の子どもの割合。貧困ラインは、経済協力開発機構（OECD）の作成した基準を用い、厚生労働省が国民生活基礎調査をもとに算出している。各世帯の年間収入から税金や社会保険料などを引いた「実際に使える金額」が2009年の場合、4人世帯で250万円、3人で217万円、2人で177万円。

# 貧困の子 実態知って

京滋の学校ソーシャルワーカー

## 実話を映像化 ネット公開



「智の物語」が初公開された「SSW-Net」の勉強会  
(昨年11月、大津市浜大津4丁目・市ふれあいプラザ)

滋賀県や京都府などで活動するスクールソーシャルワーカー(SSW)が、生きづらさを抱える子どもたちの姿を物語風に描いた映像を作り、インターネットで公開している。SSWが直面した貧困や虐待、いじめなど潜在化しがちな問題を子どもたちの視点で表現しており、「困難を背負う子

## いじめ、虐待「声届ける」

どもたちの声なき声を届けたい」としている。

作品は「貧困を背負って生きる子どもたち」。心の病気を患う母と暮らす生活保護受給世帯の中3と小6の兄弟を「仁の物語」「智の物語」として語り口調の短文と写真、音楽で伝える。SSWの幸重忠孝さん(40)＝大津市＝が実例を基に脚本を手掛けた。

仁は家事や弟の世話を担い、不登校。しかし、ボランティアで勉強会を開く大学生や不登校を経験した高校生らと出会い、閉ざしていた心の扉を開き、あきらめていた進学の道を歩み出す。

智の物語は、貧困やネグレクト(育児放棄)から巻き込まれるいじめがテーマ。家にも教室にも居場所がなく保健室をよりどころとする智の苦しきとともに、SSWや教諭、同級生とのつながりができるまでを学校を舞台に描いた。

2人の人物像はSSWが関わった子どもがモデルで全く架空の話ではない。厚生労働省によると、

2012年度に全国の児童相談所が対応した虐待は6万6807件(速報値)で過去最多。子どもの貧困率は15.7%(09年)と増えている。

幸重さんらは12年4月、「SSW-Net」を発足。現在、関西のSSW約100人が参加し、これまでに弁護士ら専門家を交えた座談会や講演会を企画するなど8回の勉強会を開いた。仁や智の物語作りをはじめ、日頃の悩みや問題を共有し、子どもを取り巻く課題解決に向けた研究が続けている。

幸重さんは「いじめや不登校は保護者のしんどさなど家庭環境もふまえた対応が必要。学校と家庭、地域をつなぎ、子どもの笑顔を増やしたい」と話す。

「仁の物語」は12年末に動画投稿サイト「YouTube」で前後編(計約11分)を公開。1年間で計10万回以上再生された。「智の物語」は昨年12月に前編(約7分半)を公開。後編は今月公開の予定。

(山本旭洋)